

健康へのメッセージ

ジェネリック医薬品（Ⅱ）

年々増加する医療費の削減を考えている政府（厚労省）は、その医療費の大きな部分を占める薬代に注目し、従来品の医薬品（先発薬と呼ばれている）からジェネリック医薬品（後発薬と呼ばれている）への移行を計画しています。ジェネリック医薬品については、平成18年8月号の広報ですでに報告していますが、本年4月より制度が変更となりましたので改めて述べてみます。

医療用の医薬品の製造販売には特許があります。新薬の開発には膨大な資金と期間が必要で、製薬会社の運命を左右するのが新薬の開発です。そのため、新薬の発売から20～25年間は特許により守られており、同じ成分の薬を他の製薬会社が販売することはできません。

しかし、特許が切れた後に製造・販売することは自由です。その薬をジェネリック薬と呼びます。「無」から開発することは多額のお金がかかりますが、化学構造式の判明したものを作るとは比較的簡単です。そのため値段も2～7割と安価になっています。政府にとっても、薬を購入する患者さんにとっても朗報です。

しかし、政府が使用を勧めるジェネリック薬の処方量は、10～15%以上には増えませんでしたが、ちなみに欧米では、半分以上の患者さんに処方されています。海外との差の要因は処方する医師が慣れない薬を覚えることとまどい、安定した供給体制がとられていないか、成分は同じでもカプセルの質や外装の不安定さから、ジェネリック薬に不安を覚えて処方にためらいが生じることが原因と考えられます。

さらに、医師が処方する際には、今まで慣れ親しんだ先発薬を選んで処方するという長い習慣があります。

これまでの制度では、患者さんから医師に対して処方する際にジェネリック薬を希望する旨を伝え、医師が了解し

た場合のみジェネリック薬が処方されていきました。医師の了解が必要ということで処方数に限界がありました。

今年4月の保険改正に際しては、従来のような医師の了解は特に必要がなく、保険調剤薬局において自由に患者さんと調剤薬局の間で先発品にするか、ジェネリック薬にするか決められるようになりました。これにより、ジェネリック薬の処方の増加が見込まれています。ただし、処方する医師にも配慮はしてあります。医師にとってこれは先発品でなければ困るという場合には、その旨を処方箋に記載することが出来ます。ジェネリック薬の製薬会社の信頼性の向上が必要と思われれます。

ジェネリック薬への変更が行われた場合には、次回診察時に必ずその旨を担当医師に伝えることが重要です。調剤薬局で発行する調剤手帳を持参して、変更があった旨を必ず医師に伝えてください。

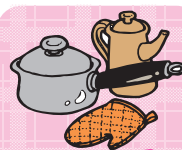
◆救急当番日

7月13日(日)
午前8時30分～
午後5時15分

◆問い合わせ

東陽病院 ☎ 13335

URL: www1.ocn.ne.jp/~toyohp/



手作りの料理を食卓に！



☆ かぼちゃサラダ ☆

材料：(4人分)

かぼちゃ	360 g
にんじん	80 g
きゅうり	120 g
玉ねぎ	25 g
シーチキン	40 g
マヨネーズ	60 g
レモン汁	大さじ1弱
塩・こしょう	少々

1人分 224kcal



- ① かぼちゃは2cm角に切り、蒸す。
- ② にんじんは1cm角に切り、茹でる。(かぼちゃと蒸しても良い)
- ③ きゅうりは板ずりし、さつと洗い、水分をきって1cm角に切る。
- ④ 玉ねぎは薄くスライスし、水にさらし、水分をきる。
- ⑤ シーチキンは缶から出し、油をきっておく。
- ⑥ マヨネーズはレモン汁と混ぜておく。
- ⑦ 材料を全部ボールに入れ、塩・こしょうをし、レモン入りマヨネーズで和える。

町食生活改善協議会